

研修履歴

正太郎さん

- 2008.01. 北海道担い手センターからの紹介でむかわ町を訪問
- 04. 長期農業体験（2年間）
- 2010.04. 鶴川研修農場で実践研修
- 2011.11. 独立就農（1年7ヶ月）
- （就農時 36歳）

京子さん

- 2010.04. 鶴川研修農場で実践研修
- 2011.11. 独立就農（就農時 62歳）



「農業をしている若い人たちが
すごい楽しそうで」

経営規模

農地 1.14ha
 施設 ビニールハウス 100坪 × 13棟
 作物 トマト・春レタス
 農業従事者 本人、妻（望さん）、母（京子さん）

住宅

市街地の賃貸アパート
 圃場から約4km



11月に農業への道を決断をし、翌年

札幌市ご出身の正太郎さんは、アメリカ、カリフォルニア州短期大学を卒業後、ハワイ州オアフ島で日本食のアルバイトをした経験を持ち、農業を始めようと決めたときは海上自衛官だった正太郎さん。
 正太郎さん「夜勤での休憩中、何気なく観ていたテレビで農業生産法人の特集をしていた。
 新潟だったかな？そこで農業をしている若い人たちがすごい楽しそう。髪型も服装も自由で、みんなの表情もいきいきして見えたんだよね。」

それまでは、海上自衛官の仕事しながらも、どこかしっくりこないモヤモヤした気持ちで長年過ごしていたという正太郎さん。
 その番組を偶然にも見た瞬間に、「これだ！」と直感的に自分のやりたいことを感じた。

2月には北海道担い手センターに相談。北海道担い手センターからむかわ町を紹介され、同月にはむかわ町のハウス内や選別所を見学し、翌月3月には退職。
 短期農業体験はまたがずに、翌月4月からむかわ町での長期体験を行うほど、農業の道への意志は固かった。
 2年間の長期農業体験後、実践型研修農場にて1年7ヶ月間の農業体験を経て、独立。

■たくさんの市町村が就農誘致に力を入れていたのですが、なぜむかわ町に決められたのでしょうか？
 正太郎さん「施設野菜で通年型栽培が出来るから。あと、むかわ町は海が近いのもよかったです。」

サーフィン・スノーボード・音楽が趣味の正太郎さん。
 望さんもスノーボードが趣味で、ご夫婦で毎年時間を見つけて行くとのこと。

正太郎さん「農業は定期的な休みがなく大変だからこそ、息抜きも大切だと思ふ。」

自分で自由な時間をつくることはできるから、趣味と両立することもできるし。」



独立就農時は、ビニールハウス9棟（1棟あたり100坪）を当時独身だった正太郎さんと、正太郎さんの母・京子さんの2人で管理していたが、現在は4棟増棟し、13棟を正太郎さんの妻・望さんも含めて3人で管理している。

■望さんは正太郎さんが独立就農した後に出会ったそうなのですが、農家のお嫁さんになることに迷いはなかったのでしょうか？



望さん「それほど抵抗もなく、結婚前は介護の仕事しながら、夜勤明けにそのまま（正太郎さんの）畑のお手伝いをして行っていました。今は全部のことが新鮮で、楽しい。」

結婚後、お子さんの妊娠を機に退職。現在2歳になるお子さんを保育園に預けながら正太郎さんのお手伝いをしている。

■農業は手塩に掛けて育てる野菜たちの成長を毎日休まず見守る献身的な仕事ですよね。

正太郎さん「見守るといふか：見届ける感じだよ。」

見届ける…。たしかに出荷という作業は最後の工程ですね。

農業についてお2人が口を揃えて言うことは、「がんばった分だけ結果に残る。」

■農業を仕事にしようと考えている方々にメッセージをお願いします。

正太郎さん「少しでも農業に興味があるのなら、まずは体験してみたい。」

そこで自分に農業が合うか合わないかわかるから。」

望さん「地方から若い人にもどんどん来てもらいたい。」